

# 29年度 事業所職員向けアンケート集計

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等のスペースとの関係が適切であるか。	6			個別活動時には、間仕切り用扉（シャッター）を閉めて少人数で活動できる部屋を作り、全体で行うプログラムの時には間仕切り用扉を開け大きな部屋にして活用が可能。
	②	職員の配置数は適切であるか。	1	2	3	配置基準上の人員は満たしているが、送迎、個別活動の対応時間帯などに不足と感じる時がある。30年4月から児童指導員（パート）1名採用予定。
	③	事業所設備について、バリアフリー化の配慮が適切になっているか。	4	2		バリアフリー化されており段差は無いが、玄関の自動ドア付近の幅が狭く、緊急時などに避難しにくくなる可能性がある為、車椅子の方が優先で先に出るなどの工夫をする。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2		毎週月曜日は全体プログラムの振り返りと、今後行う内容の説明と確認、火曜日は全体会議、木曜日は個別課題に関する会議を設定している。個別課題については、その進行状況や、取り組んでいるスタッフから子どもの状況や内容についての疑問質問を児童発達支援管理責任者が受け、回答する時間としている。全体会議では、業務の改善や、行事の計画、諸連絡等を行っている。
	⑤	保護者向けの評価票を活用するなどによるアンケート調査を実施して、保護者等の意向などを把握し、業務改善に繋げているか。	6			保護者向けアンケート調査については、放課後等デイサービスガイドラインが示される前から、独自の様式にて行い、支援や業務の改善を図ってきた。今年度については、放課後等デイサービスガイドラインのアンケート様式に沿ったものを活用し、アンケート調査を行った。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。			6	事業所単独でのHPはなく、平成30年2月頃を目途に法人HPに公開予定。（本アンケートを実施した平成29年10月末時点は未公開。）
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか。			6	
	⑧	職員の資質向上を行う為に、研修の機会を確保しているか。	6			<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研修会の参加のほか、外部講師を招いての勉強会を開催している。</li> <li>他の放課後等デイサービスの茶話会などにも参加し情報の交換や、今後の支援に生かせるようなアドバイスを頂いている。</li> </ul>

適切支援の提供

⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの要望や、支援するスタッフの見立てを基に、計画を作成し、ご家族に説明、同意を頂いている。ただ、学校との会議がまだ少なく、総合的な観点からの計画には至っていない状況もあり、今後の課題である。</li> <li>利用者のアセスメントをしている中で、適切な見立てとなっているかを確認する為にも、専門家（臨床発達心理士、作業療法士、言語聴覚士など）からのアドバイスを受ける勉強会を開催し知識の向上を図っている。</li> </ul>
⑩	子どもの適応行動の状態を図る為、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	5	1		現在は、支援スタッフの見立ての中でアセスメントを作成している。標準化されたアセスメントツールとしては活用できてはいないが、今年度Vine land-2を購入し、どう活用していくかを協議している。
⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			月末の火曜日のスタッフ会議で、来月の利用予定（プログラム内容の検討）をスタッフ全体で確認している。週ごとの反省と計画は月曜日に全体で協議している。。
⑫	活動プログラムが固定しないように工夫しているか。	6			事業開設当初より、「個別課題」、「製作」・「クッキング」・「レクリエーション」の中で内容を変更していくという形で行ってきた。大きな枠組みとしては固定されているが、その中身を工夫していくが重要であり、現在も検討している。レクリエーションに関しては、軽度の方と重度の方が一緒に行える内容という事はとても限られている為、グループで分かれたプログラムの企画をしている。また、製作についても同様に、企画の段階で一つの事をみんな同じようにやるのではなく、どの子どもでも取り組める様、障がいの特性に合わせて難易度を変えている。
⑬	平日、休日長期休暇に応じて課題をきめ細やかに設定しているか。	5	1		
⑭	子ども達の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	6			活動開始前の打ち合わせで、その日行われる支援の内容や役割分担について、ホワイトボードを活用し確認している。
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点などを共有しているか。	5		1	スタッフの勤務時間体制もあり、すべての利用者の送迎後に打合せの時間を持つことは困難なため、振り返りについては、次の日の打ち合わせで行う工夫をしている。

	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取る事を徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	6			利用者の一日の様子は、各利用者ごとにPCに必ず記録することを徹底している。また、個別活動では、本人用のファイルがあり様子を記載している。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	6			少なくとも6ヶ月に1度、見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			一日のプログラムとして、「個別での課題」と「全体プログラム」の2点を組み合わせさせて活動を計画している。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	6			児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加し、計画内容についても触れながら情報の共有、サービス等利用計画の策定への情報提供を行っている。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定の交換、子どもの下校時間の確認など）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			学校との情報共有では、年度初めに必ず利用者の在籍校に挨拶に回り、送迎での注意事項、現在その学校に在学している方の一覧、スタッフ（顔写真付）一覧などをまとめた用紙を校長先生、教頭先生にお渡しし、その際年間行事予定をいただくなど連絡調整を行っている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状、医療的ケアを必要とする子どもは利用していない。</li> <li>・看護師などの配置がない状況での、医療的ケアが必要な利用者の受け入れは難しい。</li> </ul>
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有するなどしているか。	5	1		児童発達支援センターを利用して、小学校低学年の利用者が新規で利用される際には、情報を確認している。小学校高学年や中学生の方が新規で利用する場合には、就学前と現在の様子ではかなり違う事も多く、その場合には今を見ている保護者や学校の先生などから話を聞いている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容などの情報提供などは行っているか。		5	1	個人情報の取り扱いからも、保護者からの依頼があった場合に、移行先等の関係機関に情報提供することとしている。
	㉕	児童発達支援センター、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	6			常時、専門的な機関からの助言を頂いているわけではないが、研修会の講師として来ていただいた際に助言等も受けている。また、保護者、スタッフ向けの勉強会を定期的に行い、資質の向上を図っている。今年度は発達障害者支援センターの方を講師としてお招きし、研修会を開催した。

保護者への説明責任等

②6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会はあるか。			6	現在、放課後児童クラブや児童館との交流は行っていない。
②7	(地域自立支援)協議会などへの積極的に参加しているか。			6	自立支援協議会の構成メンバーはおらず、参加できていない。
②8	日ごろから子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			保護者の方とは連絡帳で情報を共有している。また、保護者やマ〜チから気になる事があれば電話でのやり取りや、実際に面談を行うなどして対応している。
②9	保護者の対応の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか。		2	4	保護者に対し、ペアレントトレーニングの支援は行えていない。今後スタッフ間で理解を深める機会を作り、茶話会などで報告する中身も考えていく。
③0	運営規定、支援内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			利用者負担、運営規定については、契約時の説明、もしくは変更時に説明を行っている。支援内容については、放課後等デイサービス計画の説明、面談、茶話会で説明をしている。
③1	保護者からの子育ての悩み等に対する相談を適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	6			保護者から悩み等の相談を受けた場合には、その都度助言は行っているが、何よりもまずその悩みについて家族と共有することを一番に考え、しっかりと話を聞く姿勢を大切にしている。放課後等デイサービス計画の説明時に悩み等の相談が多い事もあり、面談の頻度はその方により異なる。
③2	父母の会の活動を支援したり、保護者会などを開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	3	1	2	マ〜チの中で、保護者会はないが、年に1回以上茶話会を行っている。
③3	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に対し周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			平成29年度の苦情受付件数は1件(平成30年1月末現在)。アンケートを取る際には、利用しているご家族から、より率直な要望、相談を伝えてもらえるように、受け付け方法を工夫している(匿名、郵送にて回収など)。苦情への対応としては、受け付けた段階で管理者に報告の上、速やかにスタッフ会議、苦情解決委員会を開催している。今後の対応等について検討した内容をご本人、ご家族へできるだけ早く説明する事を意識し対応している。

	③④	定期的に会報などを発行し、活動の概要や行事予定、連携体制などの情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			今年度より毎月の広報誌を発行して、連絡事項や日々の活動についても報告をしている。開設当初より、行事を行った時には報告書を作成し、ご家族に報告をしている。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか。	6			
	③⑥	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待するなど地域に開かれた事業運営を図っているか。			6	
非常時等の対応	③⑧	緊急対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。	1	5		各種マニュアルは策定されていて、支援スタッフには周知されているものの、本人、保護者への説明という点では一部不十分である為、次回の茶話会で各種対応についての説明を行う。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			年に2回、避難訓練を実施している。ただ、放課後等デイサービスでは、その曜日によって利用者が異なる為、年に2回の実施では利用者全員が訓練できていない。その為、年間を通し必ず1人1回は訓練を体験できるよう体制を考えていく。具体的には、年間予定で月曜日から金曜日に訓練を均等に行う計画を事前に作成し、ご家族にも提示していく。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等の適切な対応をしているか。	6			虐待防止に関しては、放課後等デイサービスのスタッフが研修に参加し、参加者より研修内容についてスタッフ全体に報告をしている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2	4		本人、他利用者の安全を図る為、保護者との確認の上、放課後等デイサービス計画に反映している。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3		指示書はもらっていないが、アレルギー反応の検査書や、保護者からの聞き取りで、食べられないものを確認している。また、食物アレルギーの方に関しては、アレルギー検査の結果表のコピーを必ず頂いている。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	4	1	1	ヒヤリハット報告件数はまだ数件しかなく、少ない現状。まずはスタッフがヒヤリハットを意識的に見つけていく習慣を付けていくことが必要。その為、定期的に会議の中で議題として取り上げ、ヒヤリハット事案を確認しながら、改善につなげていく。